

+++++

## 待ち合わせ

動物応用科学科4年 海老原 寛

友達と約束がある。待ち合わせ場所は、自分の家から電車とバスを乗り継いでいくところである。しかし、本数が少なく、ちょうどいいバスがない。待ち合わせ時間より1時間も早く着いてしまう。時間かせぎとバス代節約のために、いくつか前のバス停で降りて、歩くことにしよう。そう思ってバスを降り、歩き始めてはみたものの、今日は暑い。ダラダラと汗が流れてくる。

歩いていると、横を高校生が自転車で通り過ぎていく。そのとき、自分の後輩のことを思い出した。

その子には、やりたいことがないという悩みがあった。大学に進むにも、どんな学部に進みたいかさえわからないようだ。きっと、やりたいことを探す時間が欲しいのに、時が経つのが早すぎて、困惑しているのだろう。例えるなら、バスに乗っているようなものかもしれない。体は止まったままなはずなのに、景色は後ろへ流れていく。人生という名のバスは、止めることができない。

その反面、自分は好きという気持ちだけにしか従ってこなかった。動物が好きだという気持ちだけで、今この大学にいるし、ハンドボールが好きだという気持ちだけで、今も社会人チームやサークルに所属している。将来のことなど何も考えずに、ただただ好きなことだけ続けているだけだ。やりたいこともはっきりしたものではなかった。でも、その何かを好きな気持ちが、結局は自分のやりたいことにつながっ

ていくのだと思う。自分の場合、ただ好きだからという気持ちだけで続けているうちに、自分のやりたいことに気付くことができたからだ。好きだという気持ちは、その時点ではまだまだ浅いことが多い。好きだからこそ続けていけば、自分の知らないことがどんどんわかってくる。知らないことがわかってくると、もっともっと好きになる。そうしているうちに、好きなことがやりたいことになっていることに気付くのだと思う。

将来のことを考えると、自分がやりたいことだから、それを仕事にしたいという人もいる。自分がやりたいことをするために、つまらない仕事でもいいという人もいる。それは、どちらでもいいのだと思う。どちらにしろ、好きなことを一生懸命続けることが、自分のやりたいことを見つける一番の近道なのだと思う。もちろん、これはあくまでも自分の考えなので、正しいとは限らないが。

後輩にそれがわかるのは、いつになるのだろう。とにもかくにも、後輩は今、一生懸命やりたいことを探して、汗を流している。きっと後輩もそのことに気付いて、この場所にたどり着くはずだ。ちょっと先輩気取りの自分は、その後輩が追い付いてくるのを心待ちにしながら、先に待ち合わせ場所に行っていようと思う。

せっかくバスを降りて歩いたのに、結局早く待ち合わせ場所に着いてしま

った。仕方がない。ゆっくりとみんな  
を待たせよう。